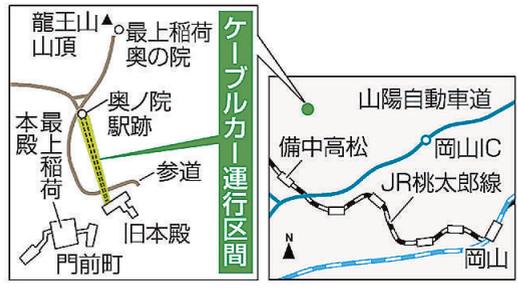


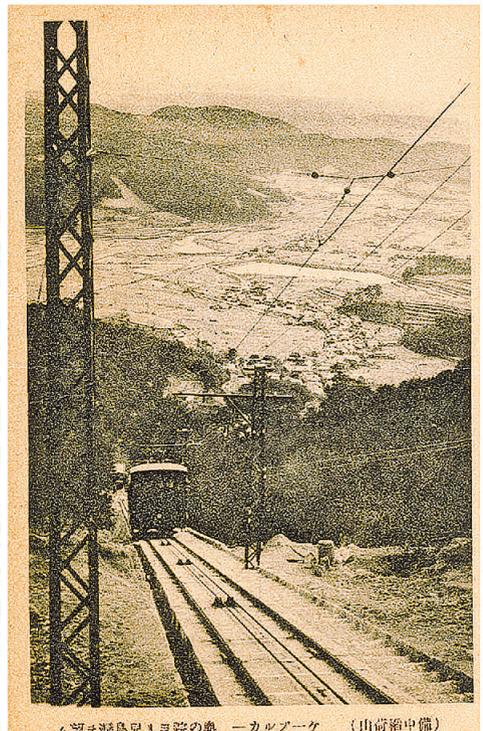
読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

最上稲荷（岡山市北区高松稲荷）では、昭和初期、戦争によってわずか15年で廃線となったケーブルカーが運行していました。記事をよく読み、質問に答えましょう。

戦争犠牲の鉄道 歴史保存



岡山・最上稲荷 昭和初期のケーブルカー
 最上稲荷（岡山市北区高松稲荷）は、昭和初期に運行していたケーブルカー「中国稲荷山鋼索鉄道」を撮影した写真やフィルム映像などの資料を募集している。同鉄道は多くの参拝客らを運んだものの、太平洋戦争末期に軍需用の鉄材供出で、わずか15年で廃線となった。同稲荷ではホーム跡などの遺構を保存する計画もあり、資料を広く集めて戦争の犠牲となった鉄道



中国稲荷山鋼索鉄道の写真が載った絵はがき（年代不明、最上稲荷提供）

ルカーでビルケースを届けたこともある」と振り返る。ただ、太平洋戦争末期に不要不急線に指定され、44（同19）年2月に廃線。車両やレール、駅舎は鉄材供出でなくなった。現在は奥ノ院駅ホーム跡の石積み、ケーブルを巻き上げる機械のコンクリートの土台などが残っている。今年5月には「戦前の鉄道開発と鉄材供出の重要な歴史を持つ」として産業遺産学会



奥ノ院駅のホーム跡。石積みのホームの中央にケーブルを巻き上げる機械の土台が残っている

鉄材供出で廃線 写真やフィルム映像募る

（東京）の推薦産業遺産に認定されたが、傷みが激しい上、周辺は草木が生い茂るなどして危険なため、参拝客らの立ち入りは禁止されている。同稲荷では、草木を伐採して案内看板などを設置して公開することを検討中。ただ、同稲荷には当時の鉄道の状況が分かる資料は絵はがきが3枚ほどしかないという。今回、広く募ることで保存に向けた参考にするともに案内看板などに活用する。多く集まればデジタル化して冊子にしたり、展示会を催したりしたいという。同稲荷の有村美香広報部長は「戦争の犠牲となったケーブルカーを広く知ってもらえるよう、資料提供の協力をお願いしたい」としている。当面、9月30日まで募集する。問い合わせは同稲荷（086-287-3708）。（矢吹喜一朗）

3日付、山陽新聞朝刊社会面

Q1 ★★☆☆

ケーブルカーはなぜ廃線となったのでしょうか。第1段落（リード）や第3段落、見出しに注目してまとめましょう。

Q2 ★★☆☆

最上稲荷はケーブルカーの資料を集めて、どんなことに活用しようとしているのでしょうか。第5段落から読み取りましょう。

Q3 ★★☆☆

8月15日で戦後75年を迎えました。8月に入ってからの新聞をめくり、戦争に関する記事を探してみましょう。

みんなの住む地域にも歴史を伝える建物や資料が残っているかも



★の数は問題の難易度を表しています。